

介護福祉士養成校の皆さまへ 学生向けアンケート結果
(協力：日本介護福祉士養成施設協会)

1. アンケート目的

本アンケートは、介護福祉士養成校で学ぶ学生が福祉に関心を持った理由、福祉に対するイメージ、将来希望する職場を把握し、介護の魅力の発信及び福祉業界の改善・発展に資する基礎資料とすることを目的として実施した。

2. 実施状況

調査期間： 2025 年 11 月

調査対象： 介護福祉士養成校在学学生

有効回答数： 1,106 人

調査方法： Web アンケート

○都道府県別回答数(単位：人)

北海道	59	東京都	125	滋賀県	26	香川県	0
青森県	24	神奈川県	39	京都府	1	愛媛県	63
岩手県	0	新潟県	43	大阪府	124	高知県	26
宮城県	0	富山県	0	兵庫県	16	福岡県	56
秋田県	0	石川県	1	奈良県	0	佐賀県	8
山形県	9	福井県	0	和歌山県	112	長崎県	36
福島県	13	山梨県	0	鳥取県	19	熊本県	0
茨城県	4	長野県	35	島根県	4	大分県	0
栃木県	10	岐阜県	10	岡山県	6	宮崎県	13
群馬県	13	静岡県	9	広島県	9	鹿児島県	46
埼玉県	19	愛知県	69	山口県	0	沖縄県	0
千葉県	59	三重県	0	徳島県	0	計	1,106

○性別・学年

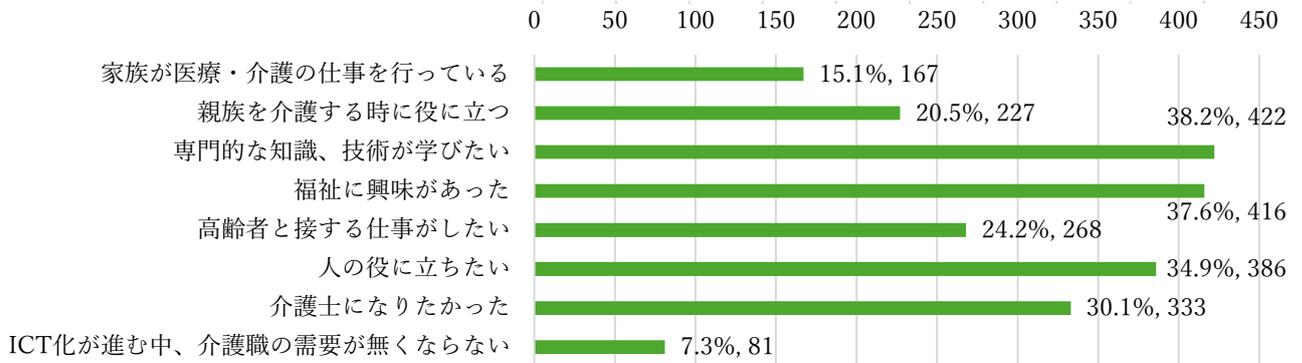
性別	人数	割合
男性	321 人	29.0%
女性	767 人	69.3%
その他・回答しない	18 人	1.6%
合計	1,106 人	100.0%

学年	人数	割合
1 年生	613 人	55.4%
2 年生	443 人	40.1%
3 年生	29 人	2.6%
4 年生	21 人	1.9%
合計	1,106 人	100.0%

3.アンケート結果

(1)養成校への進学理由(n：1,106人※複数回答)

最も多い回答は「専門的な知識、技術が学びたいから」で、422人(38.2%)、次いで「福祉に興味があったから」416人(37.6%)という福祉に関する強い関心が見られる結果となった。



(2)奨学金の状況(n：1,106人)

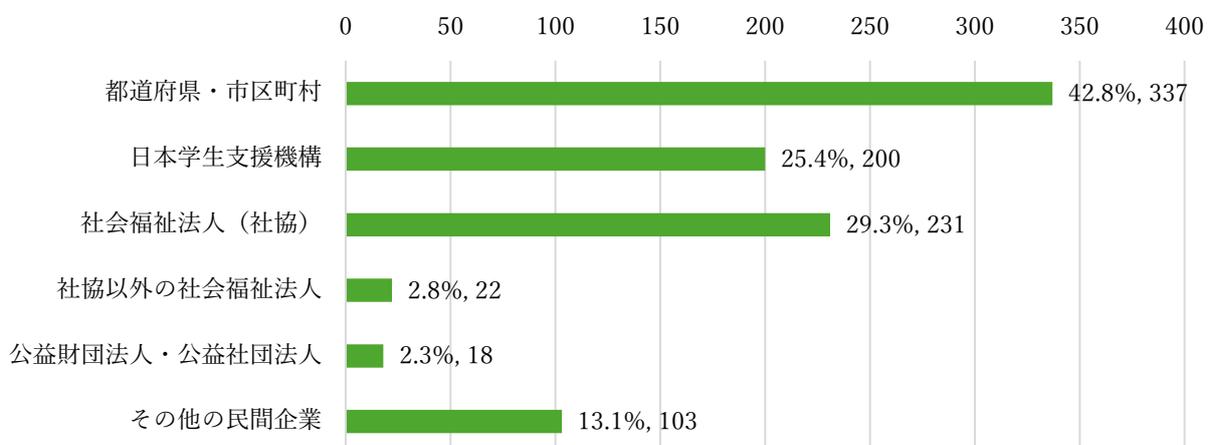
奨学金の利用者は788人(71.2%)に及んだ。利用者の借入先は都道府県・市区町村が最多337人(42.8%)で、次いで社会福祉法人(社協)で231人(29.3%)であった。免除は全額・一部を含め571人(72.5%)にみられ、何かしらの免除を受けていた。

なお、金額は101万以上が532人(67.5%)最も多く、次いで「不明」との回答が135人(17.1%)となった。

・奨学金の利用状況

利用状況	人数	比率
利用していない	318人	28.8%
利用している	788人	71.2%
計	1,106人	100.0%

・奨学金申請先(n：788人 複数回答)



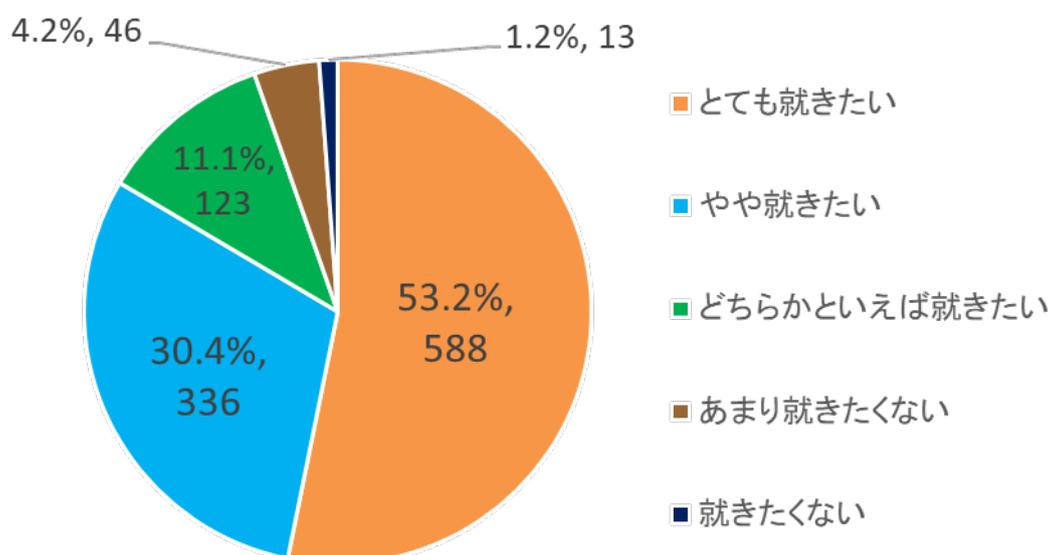
・奨学金金額、免除特例について

奨学金金額	人数	割合
不明	135人	17.1%
10万円以下	31人	3.9%
50万円以下	44人	5.6%
100万円以下	46人	5.8%
101万円以上	532人	67.5%
合計	788人	100%

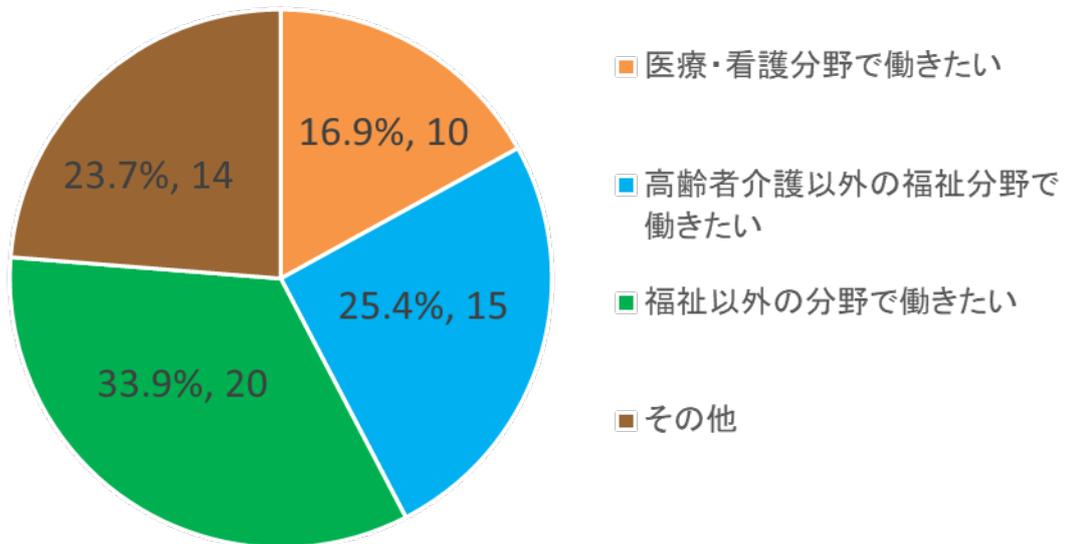
内容	人数	割合
全額免除	433人	54.9%
一部免除(全額免除以外)	138人	17.5%
免除なし	217人	27.5%
合計	788人	100%

(3)-1 介護業界での就職を考えていますか。(n : 1,106人)

卒業後の進路として、介護業界への就職意向は、「就きたい」側が1,047人(94.7%)で多数(内訳：とても588人、やや336人、どちらかといえば123人)。一方、「就きたくない・あまり就きたくない」は59人(5.3%)だった。



(3)-2 【(3-1.(4)あまり就きたくない、(5)就きたくない と答えた方)】
理由を教えてください。(n : 59人 複数回答)



その他の理由(複数記載)

他分野への明確な進路(6人)、適正・不向き of 自覚(3人)
 心理的抵抗・業務内容への嫌悪(2人)、労働条件・待遇への不満(1人)
 わからない・決めてない(2人)

(4)就職先選定における重視ポイント

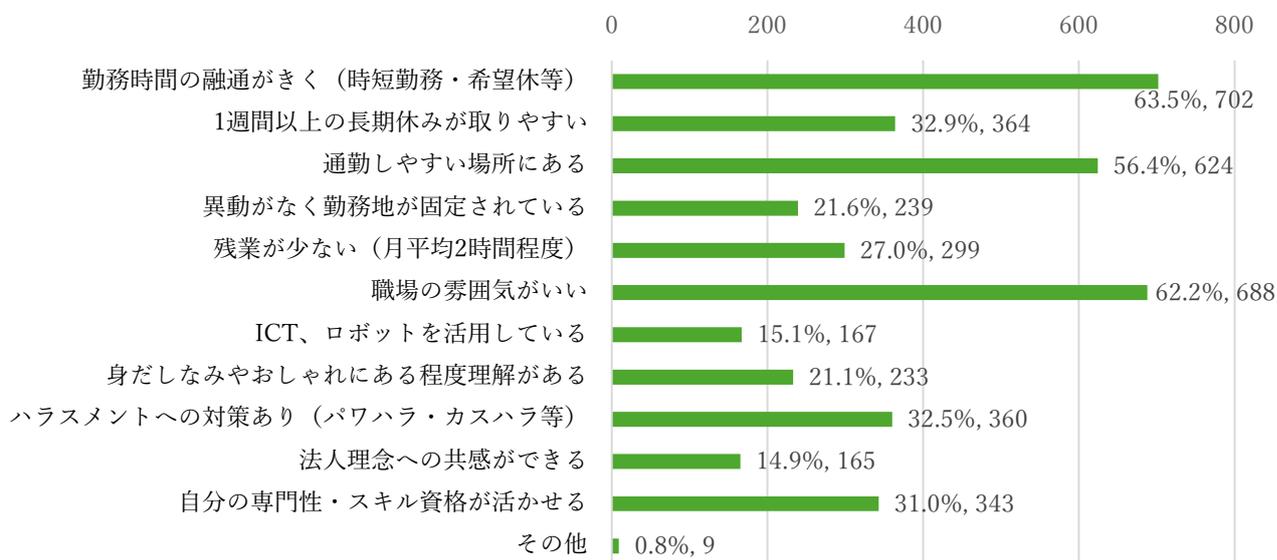
○福利厚生面で重視するポイント(n : 1,106人 複数回答)

就職先に求める条件は、月額給与のよさ 801人(72.4%)が突出し、次いで福利厚生の充実 645人(58.3%)が多かった。以降は給与のよさ 463人(41.9%)、教育・研修制度の充実 321人(29.0%)、退職金制度がある 290人(26.2%)が続いた。



○働きやすさで重視するポイント(n：1,106人 複数回答)

働き方で重視されるのは、勤務時間の融通がきく702人(63.5%)が最多で、職場の雰囲気がいい688人(62.2%)、通勤のしやすさ624人(56.4%)が続いた。次いで1週間以上の長期休暇の取得のしやすさ364人(32.9%)、ハラスメント対策あり360人(32.5%)となった。



(5)介護業界に対する不安(n：1,106人 複数回答)

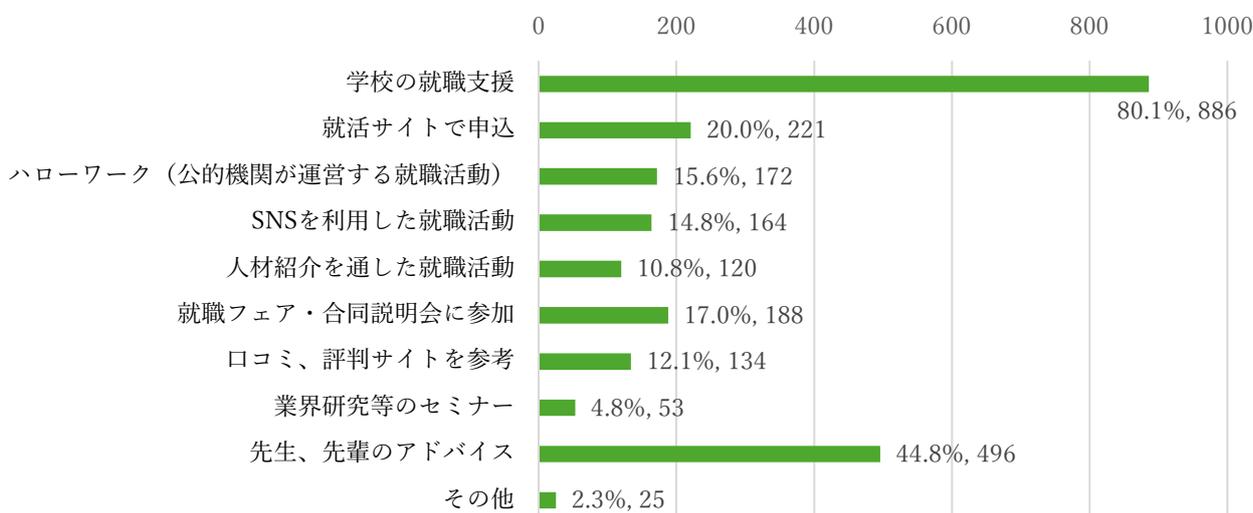
不安要因の最多は職員との人間関係652人(59.0%)で突出している。次いで給与・賞与が安い587人(53.1%)、身体的負担(腰痛・重労働など)574人(51.9%)、人材不足で仕事が大変497人(44.9%)が続く。さらに、対人援助によるストレス437人(39.5%)、有給休暇が取れない314人(28.4%)も一定数見られた。

一方で、感染症対策183人(16.5%)、コンプライアンス対応ができていないか182人(16.5%)、ICTに対応できるか143人(12.9%)は少数であった。



(6)就職活動における情報収集方法(n：1,106人 複数回答)

就職活動の情報源は、学校の就職支援 886人(80.1%)が最多で、先生・先輩のアドバイス 496人(44.8%)が続いた。それ以外の項目についてはほぼ横並びで、就活サイト 221人(20.0%)、就活フェア 188人(17.0%)、ハローワーク 172人(15.6%)と続いた。



地域活動への参加状況

地域活動	人数	割合
している	275人	24.9%
していない	831人	75.1%
合計	1,106人	100.0%

○どのような活動をおこなっているか。(n：275人 複数回答)

地域活動は実施 275人(24.9%)、未実施 831人(75.1%)で、地域の活動に参加している者は約2割にとどまった。内容は、町会・自治体の手伝い 92人(33.5%)が最多で、高齢・障がいのある方へのサポートが 75人(27.3%)、生活に困っている人のための就労体験・ボランティア活動が 70人(25.5%)と続いた。

